



# キリシタン遺物とその現地を訪ねて

## 御嶽歴史ミステリー 隠れキリシタンの里を訪ねる

昭和56年、議坂のあたりでキリシタン信仰の遺物が偶然発見されました。石に刻まれた十字やマリア像など、幕府による過酷な弾圧のなかでも発見されることなく深く信仰を続けてきた隠れキリシタンの歴史がリアルによりみがあります。中山道歩きとともに歴史ミステリーをたどるコースです。



歩き旅

### 1 名鉄御嵩駅

### 2 願興寺

天台宗の古刹、願興寺は蟹業師とも呼ばれています。この寺は、「最澄」が東国巡錫の折に、この地に布施屋を建立し、自刻の業師如来を奉納安置したのが起源とされます。その後、一条天皇の皇女とされる行智尼(ぎょうち)に業師如来を朝夕に拝んでいたところ、南西にある尼が池から数千という沢蟹の背に乗った一寸八分の金色の尊像が現れたといわれています。これが天聴に達し、勅命によって七堂伽藍が建立されました。

現在、本堂、本尊業師如来、日光月光両脇持、四天王像、十二神将、釈迦如来三像、阿弥陀如来立像、坐像の24体が国指定の重要文化財になっています。

### 3 御嶽宿わいわい館

宿場のおもてなしと交流の拠点としてオープンしました。町内の菓子店の和菓子とお茶などのもてなしが有料で受けられるほか、地域の物産なども販売しています。イベントも随時開かれており、御嶽宿名物の華すしづくりが人気です。みたけ華すしは、願興寺の寺紋の「ぼたん」と、お隣の可児市の花である「ばら」、皇女和宮の歌にちなみなどもみじなどを太巻き寿司にしたもので、御嵩町の新たな郷土食として普及するようにと、地元の主婦の皆さんが発案しました。

### 4 中山道みたけ館

1階は図書館で2階が郷土を紹介する郷土館になっています。郷土館では、この地域の先史時代から現代までを歴史の流れに沿って展示、解説しています。弘仁6年(815)に建立された願興寺をはじめとした古代寺院の建立と古代の道「東山道」、隆盛を極めた江戸時代の御嶽宿、隠れキリシタンや垂炭坑の紹介など興味深く見ることができます。特に隠れキリシタンの遺物は見物で、石に掘られたマリア像や十字架などミステリアスな魅力があります。

### 5 御嶽宿本陣

### 6 御嶽宿商家竹屋

犬矢来のあるこの家は、豪商であった竹屋で御嵩町指定有形文化財に指定されています。平成15年に「中山道御嶽宿商家竹屋」として御嶽宿の資料館になりました。明治10年ごろの建築で江戸時代の様式を色濃く残す建物として商家のつくりや機能を解りやすく見ることができます。商家竹屋は本陣の野呂家の分家が経営していたものです。

### 7 和泉式部廟所

あらざらむこの世の外の思ひ出に 今ひとたびの逢ふこともがな  
百人一首にある和泉式部の歌です。<私はもうすぐ死んでしましますが、あの世へ持っていき思い出として、今もう一度だけお会いしたい>という情念が込められた歌です。

和泉式部は、平安時代の代表的な歌人で、自身の恋愛遍歴を記した『和泉式部日記』は時代を代表する日記文学となっています。その廟所とされる場所で、石碑には「ひとりさえ 渡れば沈むうき橋のあとなる人はしばしとどまれ」と記されています。恋多き女性であった和泉式部は、趣くまに身を処して東山道をたどり、この地で病に伏し、現在の鬼岩温泉で湯治したもののここで亡くなったと言われています。



### 8 牛の鼻欠け坂

岩盤を削った急な曲がり坂で、中山道を往来する牛や馬の鼻が擦れて欠けるほど急であったことから、このように呼ばれるようになったといわれています。「牛坊、牛坊どこで鼻欠かいた、西洞の坂で欠かいた…」という唄も今なお残っているそうで、当時の人々が難儀をした様子がうかがえます。

### 9 耳神社

耳の病に靈験ありと伝えられる小さな社で、昔から、耳の悪い人がお供えしてある鯉(きり)を1本借りて耳にあて、治ったらお礼に年の数の鯉で編んだすだれを奉納するというとても珍しい習わしがあり、現在も奉納されたすだれが絶えることがないそうです。元治元年(1864)、尊皇攘夷をかかげた武田耕雲斎率いる水戸天狗党が中山道を西八向かう途中に、耳神社の幟を敵の布陣とみて抜刀して通ったという逸話も残っています。

### 10 議坂石畳

石畳の美しい、ここが議坂です。急な坂なので旅の人は元気付けのために歌を詠ったのだとか。

### 11 安藤広重浮世絵モデルの地

昔ここには茶屋や木賃宿があり、池が共同の洗い場になっていたそうです。そこに一里塚が造られ、付近に10本の松の大木があったことから十本木の立場と呼ばれるようになりました。安藤広重の木曾海道六十九次の内、御嶽宿の画はこの場所がモデルで山里の「木賃宿」を中心に、囲炉裏を囲んで談笑する庶民の旅が描かれています。

### 12 十本木立場跡

10本の松の大木があった十本木立場(人足が駕籠や馬を止めて休息した場所)がこのあたりにあったということですが、今は面影はなく道路沿いに目印だけがあります。

### 13 マリア像

昭和56年、議坂地内で道路工事中にキリシタン信仰の遺物が偶然発見されました。その後の調査で、小原、西洞、議坂地内で数多くの貴重な遺物が相次いで発見されたことから、この地に多くのキリシタン信者が居た事が判明し、歴史上大きな資料ともなりました。幕府の過酷な弾圧の中で発見することもなく信仰が続けられたのは奇跡とも言え、全国でも非常に珍しい例です。発見された遺物は、御嵩の資料館(中山道みたけ館)に展示されていますが、このマリア像の建立には、当時の辛苦に耐えた先祖の慰霊と地域の幸福と平和を願う大くの人々の協力がありました。

企画:中山道案内人倶楽部  
制作:中山道ぎふ17宿歩き旅事務局  
(日本イベント企画株式会社内)

